

われら仏ぶつ壯そう
お念仏のなかま



(上) 円光寺の本堂でみんな一処
に会うことができました
(2014年2月9日)



(左) 昭然前任職(写真前列左から4人目)を中心に仏教壮年
会結成当時のメンバー
延岡の妙専寺様にお参りし
ました
(1988年10月23日)

ようこそ

第 30 号
浄土真宗本願寺派
円光寺
〒870-0108
大分市三佐3-15-18
TEL.097-527-6916
FAX.097-527-6949

仏教壮年会、再スタートです。

円光寺には、円成会、婦人会、壮年会、青年会、子ども会という教化団体(生涯聞法の組織)があつて、円光寺に所属する全てのご門徒を対象に、仏法聴聞を通してお寺の活動、法要行事に積極的に参加、お手伝いいただいています。

そのなかで仏教壮年会は、昭然前任職の時平成52年の本堂新築を機縁に結成されました。当時は、お寺参りといえば女性が殆どで、男性は総代さんぐらいでした。阿弥陀さまのご本願のお救いに男女の区別はありません。男性にも仏さまのご縁に遇つてほしいと、前任職の強いリーダーシップで、ご門徒衆に入会を呼びかけ、三十代から六十代の方が円光寺に結集しました。

それは円光寺の歴史の中でも画期的なことでした。その後の壮年会の活動は目を見張るものがありました。五月の親鸞聖人降誕会のバザー、十一月の御正忌報恩講の加勢を中心に、本堂での葬儀執行や掲示伝道の推進など、住職をたすけ、ご法義繁盛念仏興隆に大変ご尽力いただきました。

しかし住職継職以降、世代交代の時期も重なり、会員が少数固定化して思うような活動ができていませんでした。そこで還暦の会、百華のつどい、あんのん法話会などのお寺のご縁づくりをすすめ、このたび円光寺門徒すべての壮年男性を対象に、仏教壮年会を再結成するはこびとなりました。

二月九日(日)の結成式には23人が集い、今後の活動としてまず全員が「毎月第二日曜日にお朝事参りをしよう」と申し合わせしました。懇親会では皆さんにお寺を思ってくださいる力強い言葉を山かけてくださり、住職として本当に心強かったです。これからの活動が大いに楽しみです。

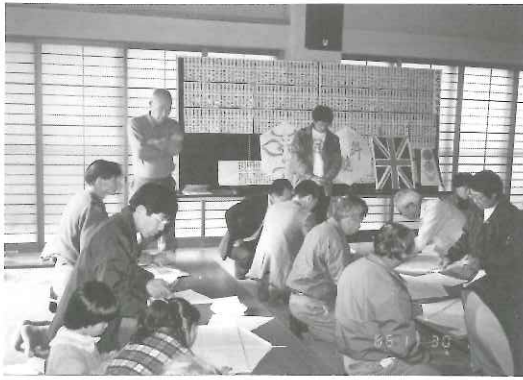
お念仏の先人をたずねて

『円光寺仏教壮年会の歩み』

昭然前任職が本堂新築を機縁にご門徒皆さんに呼びかけ始めたことが、毎朝六時半からのお朝事のお勤めと仏教壮年会の結成でした。爾来37年、お念仏の先人のおかげで麗しい円光寺の伝統が受け継がれています。

お念仏の先人

壮年会の初代会長は古野俊一さん、二代目は御手洗弘さん、三代目は岩崎俊孝さん、そして現会長は田仲進さんです。この間、次の会員の皆さんがお寺参りにつとめられ、お念仏の法灯



子どもたちと一緒にタコ作りをしました
(1986年11月30日、本堂)

を護り伝えてくださいました。ここに深く感謝申し上げます、お名前を記します。

岩崎正、三浦三郎、三浦至、三浦要、並河正一、片田平八郎、岩崎萬平、橋本辰男、御手洗弘、御手洗邦彦、桑畑次丸、山村清、古野俊一、菅正義、三浦安吉、岩崎善彦、岩崎義人、安部信雄、岩崎春人、山本広登、古長喜八郎、志水信雄(以上故人)
橋本清明、清松博人、大津智生、橋本利男、岩崎董義、岩崎俊孝、三浦末広
(現会員を除く、順不同・敬称略)

親から子へ

お念仏のつながり

このたび壮年会に参加してくださった方々の顔ぶれをみて、あらためて思うのは、私たちのご法義のおはたらき、お念仏のつながりということですね。親から子へと確かにお念仏が伝えられています。「親の背中を見て子は育つ」といいます。お寺参りする姿、お仏壇で手を合わせお念仏申す声がそのまま本堂に有難いことだと思えます。



聞法の旅、五ヶ瀬町・浄専寺様しだれ桜の下で
花見の宴です (1996年4月9日)

いつでも入会できます

今回門徒名簿を掘り起こしてできるだけ多くのご門徒衆に声をかけました。まだ仕事に忙しいとか体調面で入会が難しいという方がいらつしやいました。いつでも入会できますので、その時は気軽に連絡してください。いつでもどこでもどんな人でも必ず救うとおはたらきの阿弥陀さまのご法義です。今、ここに、この私をめぐりにしているということですね。仏さまのご縁に遇わせていただきましょう。あなたのご参加を会員一同お待ち申し上げます。

「いっしょにいこうえい」

お念仏の声かけを

しましょう!

世々生々

人気アニメ「サザエさん」のお父さん磯野波平さん役の声優さんが亡くなった。その後の日曜日の夕方、テレビにはいつものように波平さんがいた。波平さんは生きていた。いつものように「ばかもーん」とカツオを一喝していた。サザエさんは45年前から年をとらない。いつも愉快的なサザエさんである。◆いつもの日常。サザエさん一家のような日常に思いを寄せる人が多い。戦後の復興から高度経済成長期を経て、日本社会は大きく変化した。私たちの日常生活も変わった◆目まぐるしく変化するなかで、ほっと一息つける、安心して落ち着くところがお茶の間。家族が集まりお茶を飲み談笑してくつろいだ。それが日本の家庭生活の日常になっていた。その中心にテレビがあった◆それ以前、家庭生活の中心には仏壇があった。家族そろって朝夕仏さまにお参りして一日が始まり一日を終えた。人と生まれ老いて病んで命終えていく、私たちの一生を見守ってください。お念仏のつながり◆そして今も、この身は日々変わっていくが、いつでもどこでもこの私に寄り添ってくださる仏さまに安心して、今日一日も年をとっていきける。

お朝事「法話」より

「清々しい気持ちです」

ロシアのソチで冬季オリンピックが開かれています。昨日は期待のスピードスケート男子五百Mがありました。日本選手はメダルに届かず、テレビ報道は連日「日本初のメダルはいつ、誰が」と少々加熱気味です。

四年に一度のオリンピックは競技者にとつて最大の晴れ舞台、観る方も自ずと力が入ります。最高の結果を出す者もあれば、日頃の力が出せずに終わる者もいます。勝つて笑って負けて泣いてと、その人の人生の軌跡を重ねて一つのドラマをみます。

そのなかで競技を終えた選手のコメントがいいですね。開会翌日の女子モーグルの上村愛子選手。長野五輪から五回連続出場。34歳、これが最後のオリンピックと決めていたそうで、今まで一番の滑りができたというのでした。結果は四位。今の心境はときかかれて「滑り終えて、本当に清々しい気持ちです」と。その言葉にテレビ中継のアナウンサーが「私たちはメダルが獲れなくて残念、悔しいだろうと、メダルにこだわっているのに、上村さんは一歩先を



大別別縁のご願(2月15日)別別縁のご願(2月15日)別別縁のご願(2月15日)別別縁のご願(2月15日)

労さま、こちらこそ何か清々しい気持ちです」と応じました。

それこそ血のにじむような努力を重ねて大変な苦労があったと思えますが、一つの大仕事を成し終えた充実感が伝わってきます。一方、メダルメダルと結果のみにとらわれている私が何とも恥ずかしい気がしました。

他の人からみると大変だなど思うことも、その人にとつては一つの目標に向かって生きること、清々しさを感ぜられるのも、その人だけなんですよ。

これは特別な人のことではなくて、この人生を生きるということにも重なると思えます。私が生きる道です。仏教は成仏道といつて、迷いの私が悟りの仏に成る道を説きます。仏道修行です。自ら出家し精進努力して学問修行を積み重ねます。しかし修行の一つでも成し遂げることは甚だ難しい。

一方私たちの浄土真宗の仏道は、往生浄土の道です。この私

が頑張つて切り開いていく道ではなくて、阿弥陀さまがお浄土から開いてくださった、誰もが歩んで往ける道なのです。

在家の社会生活、人間関係のなかで生きる私たち、どこまでも自分を中心に自分の都合にあわせて、毎日あてもないこうでもないと思ひ苦しむ、迷いのなかにある私を、阿弥陀さまは見とつて、南無阿弥陀仏一つで必ず救うとおはたらきです。

南無阿弥陀仏とお念仏申しつ

お朝事にお参りしましょう
 毎朝6時30分〜7時

ご案内

◆春彼岸会
 3月20日(木) 11:00~14:00
 同 19:30~21:00
 3月21日(金) 13:30~15:00

◆花まつりの会
 4月6日(日) 10:00~12:00
 (白象パレード、新1年生を祝う会)

しゅうそ こうたん え
 ◆宗祖降誕会
 5月18日(日) 10:00~15:00
 (初参式、バザー、もちまき)

◆常例法座
 6月16日(月) 10:00~11:30

“月に一度は
 お寺参りしましょう”

※詳しくは『寺通信』でご確認ください。



11月24日の誕生日に、お朝事のお同行の皆さんにお祝いをしていただきました。前列左から2人目が保惠前坊守(庫裡お内仏)

保惠前坊守さん
 八十八歳になりました
 11月24日に米寿を迎えました。長い年月をかけてお念仏申す身にお育ていただき、おかげさまで有難く深く感謝しています。これからも一日一日を大切に、お念仏申して日暮しさせていた

😊 東北に笑顔をおくりましょう 😊

東日本大震災から三年が経ちます。被災地の復興はまだ道半ばで、仮設住宅や故郷から遠く離れた所で避難生活を余儀なくされている方が多くいらっしゃいます。円光寺では本願寺仙台別院(東北教区ポランティアセンター)や被災ご寺院に大分のお菓子を送っています。仮設住宅のお茶会やお寺のご法座に美味しいお菓子をいただいで、笑顔になってほしいと思います。皆さんのご協力をお願いします。

仏前成人式

除夜会のご縁に仏前成人式を行いました。子ども会水曜学校の修了生が集い、記念に腕輪念珠と「歎異抄」を贈りました。



8年ぶりにタイムカプセルを開け、子どもの頃にかえて話弾みました(12月31日)



2月第2日曜日はダーナの日。ご門徒皆さんから寄せられたダーナを前に、仏教婦人会理事会の皆さん(2月14日)

大在の長光寺仏教壮年会と交流会をしました。初めての会でしたが、仕事や学校関係で知り合いも多く、和気あいあいのうちに大いに親睦を深めました。



長光寺様円光寺合わせて28人が集いました(12月19日、鶴崎桜クラブ)

親鸞聖人御正忌報恩講



松本英祥ご講師(熊本光尊寺住職)に布教お取り次ぎいただきました(11月27日)



子ども報恩講のようす(11月26日)
(上)おせつたいのぜんざいをいただきました
(下)人形劇「泣いた赤おに」中学生スタッフの皆さん



門徒報恩講地域法座のようす(仲村・山村信行様宅、12月11日)

本願寺四日市別院の宗祖報恩講御引上会に同行五人でお参りし、別院婦人会手作りのお齋(写真下)をおいしくいただきました。(12月15日)



あとかぎ

久しぶりにご本山にお参りした。大きな法要行事のご縁ではなく、境内は閑散としていた。御影堂にあがって、親鸞さまのご真影にお礼をさせていた。四、五人のお同行がいて、ご尊前で正信偈のお勤めをしている方がいた。尊いことである。特別なことではなく、常日頃の営みのなかでお念仏申させていただけ。ご本山は私たち浄土真宗門徒のいのちの古里、いつでも私をそのまま迎えてくださる。大いなる如来のお慈悲に抱かれて、ままならない人生だが、日々安心して生きて往ける。